実践事例
3年
小説

# 故郷

## 「わたしの『故郷』論」を書こう

設定や表現について考えながら作品を読み深め，評価する

### 学習のねらい

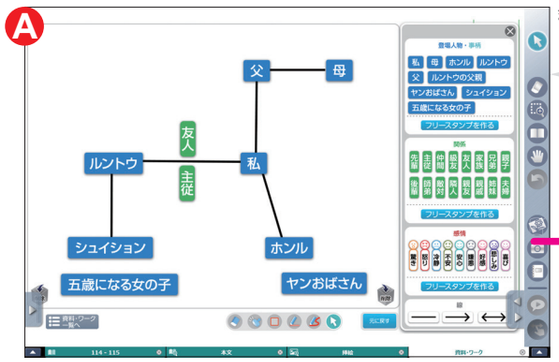
- 場面や登場人物の設定に着目して，内容を読み深める。
- 時代や社会の変化の中での，人と人との関わりについて考えをもつ。

### 学習の流れ（全6時間）

| | |
|---|---|
| 第1次（1時間） | **作品を通読して，初発の感想をまとめる。**<br>① 主な登場人物と場面構成に注意しながら通読して，感想をまとめる。<br>② 第3次で作品の魅力や特色などについて論じる文章を書くことを予告する。 |
| 第2次（3時間） | **登場人物の関係性や情景描写に着目して，作品を読み深める。**<br>① 登場人物の設定や関係を「人物相関図」にまとめ，作者の意図を考える。Ⓐ<br>各グループで話し合った後，全体で人物像や人物関係の設定について話し合う。<br>② 再会の場面の「私」とルントウの心情について話し合う。ⒷⒸ<br>訳の違いをきっかけに考える。<br>③ 情景描写（色彩表現）に着目して，登場人物の心情や作者の意図を読み取る。Ⓓ |
| 第3次（2時間） | **「わたしの『故郷』論」を書き，グループで読み合う。**<br>① 各自が取り組み，その後，グループで読み合う。 |

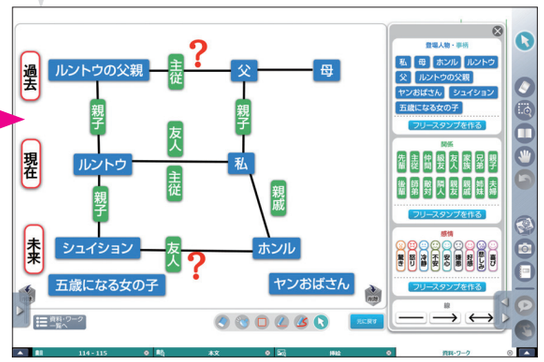
### 「国語デジタル教科書」活用の具体例

**第2次①　登場人物の設定や関係を「人物相関図」にまとめ，作者の意図を考える。**




まず，基本的な登場人物を押さえる。

資料・ワーク：
「登場人物の関係を整理しよう」




「現在」「過去」「未来」の要素をフリースタンプで入れる。

「故郷」では，登場人物個々の人物造形ばかりでなく，人物どうしの「関係」にも作者の意図が読み取れる。ホンルとシュイションが30年前の「私」とルントウの関係の再現として描かれ，「私」の父とルントウの父も同様な関係であったと暗示される。これよって，「進歩もないかわりに……」と語られる「故郷」が象徴されている。こうした作品構造を捉えるために，「登場人物の関係を整理しよう」（Ⓐ）で人物相関図を作り，話し合った。

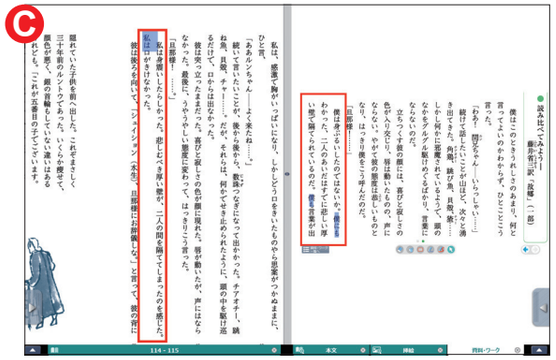
ここでは，人物相関図に，「現在」「過去」「未来」の視点を入れると作品構造が見えてくる。オリジナルのスタンプは，「フリースタンプ」機能で作成することができる。

**生徒の反応　図示や可視化で生まれる気づき**

「私」とルントウ，その父どうし，ホンルとシュイションと，進歩なく断絶を繰り返す予感に気づくとともに，ホンルが親子でなく甥であることで，未来の変化への可能性を読み取る生徒もいた。人物関係が図として可視化されることによって深め得た意見だと思われる。

**第2次②　再会の場面の「私」とルントウの心情について話し合う。**

資料・ワーク：
「読み比べてみよう―藤井省三訳『故郷』（一部）」




「二画面表示」で教科書紙面と「読み比べてみよう」を並べて表示。

「私」とルントウが再会する場面は，最も印象的な場面の一つである。ここで，教科書の竹内好訳とデジタル教科書収録の藤井省三訳「故郷」（一部）（ⒷⒸ）を比較した。

「美しい故郷」の象徴であったルントウの変貌と，それに対する「私」の落胆・隔絶感は，教科書P114L17～19で「旦那様」「身震いしたらしかった」などの衝撃的な言葉で叙述される。まずは，竹内訳に従って，「私」の衝撃を読むことから始めるのがよいだろう。「私」の衝撃はどんな表現で読み取れるか，「悲しむべき厚い壁」とは何か，さまざまに解釈し合ったうえで，藤井訳を紹介する。竹内訳「私は口がきけなかった。」の部分が，藤井訳では「僕も言葉が出てこなかった。」となっている。ここから，「ルントウも」同様に衝撃を受けていることに気づいた。

**生徒の反応　比較して読みを深める**

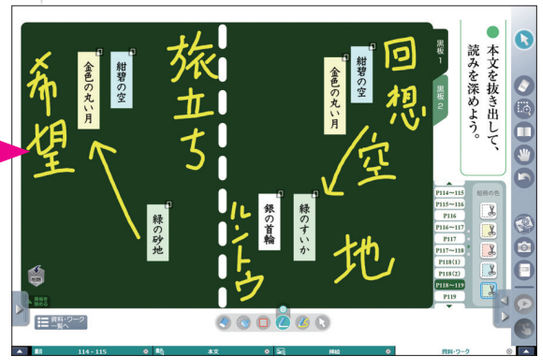
比べ読みの観点として，訳者の違いというのは，生徒にとって新鮮だったようだ。言葉の僅かな差異が読み取りに大きな影響を与えることが実感できたようだった。

**第2次③　情景描写（色彩表現）に着目して，登場人物の心情や作者の意図を読み取る。**

生徒の発言などを基に，色彩表現を抜き出す。

資料・ワーク：
「本文を抜き出して，読みを深めよう」（黒板ツール）

それぞれの要素の対応関係を整理していく。




「黒板ツール」（Ⓓ）を使って，「回想」と「旅立ち」の場面の情景描写を抜き出し，比較して，読みを深めた。

この作品は，冒頭に「鉛色の空の下」とあるように意図的にモノトーンの色調で描かれているように思われる。「では，『故郷』に出てくる色彩は？」と問うと，ほぼ「回想（ルントウの思い出）」の場面と「旅立ち」の場面に登場する「紺碧の空」「金色の丸い月」「緑のすいか／砂地」に限られる。しかし，同じ「紺碧の空」に「金色の月」の情景も，つぶさに見ると違いがある。「回想」の場面は鮮明で，英雄ルントウもいる。しかし「旅立ち」の場面はまどろみかけた「私」の目に映るぼんやりした情景として描かれ，ルントウもいない。この違いに着目しながら，「希望」を語る「私」の心中について話し合わせた。

**国語デジタル教科書を活用した感想**　人物相関図ではスタンプをさまざまに移動できること，「黒板ツール」では離れた描写を対比できることが効果的であった。抜き出す，動かすなどの「操作」によって，思考が活性化，明確化する効果が期待できる。